

論壇

打ち込みにくい配列

パソコンのキーボードの一番上の列を左から右へ読んでいくと、QWERTYとなっていることが確認できると思う。世界中のキーボードがそういう文字の配列になっている。

なぜそうなっているのかご存じだろうか。この質問に返ってくる答えとして多いのは、それが一番文字を打ち込みやすい配列だからだろう、というものだ。しかし、答えは逆なのだ。文字を打ち込みにくくした配列がQWERTYなのである。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

ののだろうか。この問いに答えるためには、100年以上前にさかのぼる必要がある。当時、米国では手動式のタイプライターが多くの人に使われていた。文字キーを打ち込むと、その活字の入ったピシが出てきて紙に文字がプリントされるという仕組みだ。この手動式タイプライターの問題は、プロ

旧来の慣行への挑戦

のタイプリストのようにあまりに速く文字を打ち込む人がいると、複数の文字キーが絡まってしまふことにある。これをジャミングというようだ。

そうしたジャミングを起こさないためには、どんなに熟練したタイプリストでも、あまり速く文字キ

ある。今やパソコンのキーボードはタイプされた文字を電氣的に読み取るので、ジャミングなど絶対に起こらない。だから、もっと速く打ち込めるような文字列にしてもよいはずだ。現実にも、そうした文字列の製品も幾つかは出たようだ。しかし、結局は旧来の文字列方式には勝てない。多くの人がその配列のキーボードに慣れてるので、他の配列の製品は売れないからだ。結局、今でも世界中の人が打ち込みにくい配列のキーボードを使い続けている。

政策的な圧力の必要

この話は経済学の世界でよく出てくる。いったん確立した慣行は、その合理性が失われてからも、なかなか消えることはない。それを改革していくためには、政策的な圧力が必要となることも少なくない。

こうした慣行の例として、終身雇用・年功賃金制度があるように思える。この制度は、かつては重要な機能を果たした。しかし、同じ能力でも年齢が若ければ給与を低くし、長く勤めた人には給与を高くするということが合理性があるのだろうか。ましてや、同じ仕事をしているのに、パートやアルバイトの時給は、正社員の時給当たりの給与よりも大幅に低いということが正当化できるのだろうか。

政府が掲げている同一労働同一賃金は、まさにこうした旧来の慣行への挑戦である。同じ仕事をすればおかしな話では

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。